令和3年度版 中学校英語教科書 内容解説資料

令和3年度版

NEW CROWN

**Q&A**

|  |
| --- |
| **目次**  全体　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2  **Q. 教科書の編修方針は？**  **Q. どのような力を育成する教科書ですか？**  **Q. 教科書のレッスンはどのような構成ですか？**  **Q. 新学習指導要領で学習内容が増えていますが，教科書はどのようになっていますか？**  小中連携　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　4  **Q. 令和2年度から小学校で英語が教科化されます。中1の教科書はどのように変わりますか？**  **Q. 中1の教科書で扱う文法事項は？**  言語活動　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　5  **Q. 改訂されたUSE Readの活動は？**  **Q. 改訂されたUSE Writeの活動は？**  **Q. 改訂されたUSE Speakと新設のTake Action! Talkの活動の違いは？**  **Q. Take Action! Listenのリスニングの音声と，巻末のスクリプトの使い方は？**  **Q. GET Plusを新設した意図，役割は？**  **Q. Projectの目的は？**  語彙　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　8  **Q. 語彙の選定と，発信語彙と受容語彙の扱いはどのようになっていますか？**  ユニバーサルデザイン等　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　8  **Q. ユニバーサルデザインと学習の配慮は？** |

この資料は，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成しております。 　SANSEIDO

全体

**Q. 教科書の編修方針は？**

以下の5つの基本方針に基づいて編修しました。

①　小学校での学びを生かして，中学校での学びにスムーズに接続する。

　─小学校英語の教科化に伴う小学校での体験をふまえ，円滑に中学校での学びへとつなぐレッスン構成

②　基礎的･基本的な知識･技能を習得し，思考力･判断力･表現力を育成する。

　─言語材料を身につけるGETと，それらを活用して言語活動に取り組むUSEを配置したレッスン構成

③　5領域のバランスに配慮し，対話的な学びや深い学びを引き出す言語活動を充実させる。

　─小学校英語の教科化と，中学校英語で取り扱う言語材料の増加に対応し，高度化された言語活動

④　生徒の知的欲求にこたえる題材，人間教育に資する題材を選定する。

　─生徒の知的好奇心や興味･関心，発達段階に合った題材やテーマ，多様な文化などに触れる題材

⑤　生徒の主体的な学びを支援し，学びに向かう力を育てる資料の充実をはかる。

　─自律的な学習をサポートする資料やQRコード，CAN-DOリストなどを配置② 5領域のチカラを総合的，統合的に伸ばしていけるレッスン構成

**Q. どのような力を育成する教科書ですか？**

　英語教育を通して，確かな学力，国際社会に対応できる資質･能力と，豊かな人間性を，それぞれの学校段階に応じて育成することを教育理念とし，それを実現するための目標として，以下の４つの力を育成することを目指しました。

　①　ことばを使う力を育てる

　　─ことばを使うことは，思いを伝えること。ことばを使って理解し，表現し，伝え合いながら，実際のコミュニケーションで活用できる確かな英語力を育成します。

　②　他（人や文化など）とかかわる力を育てる

　　─かかわることは，互いを認め合うこと。さまざまな人や文化などに触れながら，社会の多様性を理解しかかわっていく力と，豊かな心を育成します。

　③　考える力を育てる

　　─考えることは，自分と向き合うこと。さまざまな活動を通して，目的や場面，状況に応じてコミュニケーションを図る力と，論理的･批判的に考える力を育成します。

　④　学びに向かう力を育てる

　　─学ぶことは，自分の可能性を広げること。多様な学び方を経験しながら，学ぶことを楽しむ心と，主体的･協働的に学ぶ力を育成します。

**Q. 教科書のレッスンはどのような構成ですか？**

レッスンには，言語材料を身につけるGETと，それらを活用して言語活動に取り組むUSEを配置しています。GETでは，文法事項や文構造，語句･表現などの基礎的・基本的な知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの活動を通して，活用できる技能を身につけます。USEでは，知識・技能を活用して，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動に取り組み，思考・判断・表現する力を身につけます。

　レッスン全体では，学びのプロセスを「見える化」し，学習の流れがわかりやすい構成になっております。

　①　とびら ─学習の見通しを立てます。

　②　GET ─文法事項や，語句・表現など基礎的・基本的な知識とそれらを活用できる技能を確実に習得します。

　③　USE Read　　　　　─知識・技能を活用して読む活動に取り組み，目的や場面，状況に応じて概要や要点を捉える力を養います。

　④　USE Speak / Write ─知識・技能を活用して話す／書く活動に取り組み，目的や場面，状況に応じて思考・判断し，表現する力を養います。

　⑤　文法のまとめ　　 　─学習した文，文構造，文法事項を振り返ります。

**Q. 新学習指導要領で学習内容が増えていますが，教科書はどのようになっていますか？**

　令和3年度版では以下の理由で，全体の分量が増えています。

　①　新学習指導要領で小学校英語が教科となり，他の教科と同様に，中学入学時には基礎的な知識･技能（アルファベットの文字，簡単な語句･表現，文や文構造）を身につけています。

　　＝小学校で学ぶ内容＝

授業時数：3･4年＝各35時間，5･6年＝各70時間　　合計210時間

　　　　　語彙：600～700語／文，文構造：be動詞，一般動詞，can，動詞の過去形など

　②　新学習指導要領では，中学で扱うべき語彙が増え，新しい文法事項が高校から移動してきています。

　　語彙1,200語程度→1,600～1,800語／新規文法：現在完了進行形，仮定法過去，原形不定詞など

　③　新学習指導要領では，5つの領域の目標と言語活動の例が具体的に示されました。また，それぞれの言語活動については，これまで以上の充実と高度化がもとめられています。

　　　・学習指導要領の「(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項」に提示された20の言語活動例を網羅

　　　　　聞くこと(ｱ)(ｲ)(ｳ)(ｴ)／読むこと(ｱ)(ｲ)(ｳ)(ｴ)／話すこと［やり取り］(ｱ)(ｲ)(ｳ)／

　　　　　話すこと［発表］(ｱ)(ｲ)(ｳ)／書くこと(ｱ)(ｲ)(ｳ)(ｴ)

　　　特に言及するとすれば，「話すこと［やり取り］（ｳ）社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，読み取ったことや感じたこと，考えたことなどを伝えた上で，相手からの質問に対して適切に応答したり，自ら質問し返したりする活動」を，令和3年度版の目標と位置づけ，2年Project 3と3年Project 3にディスカッションの活動を配置しています。

分量は増えておりますが，本文の英文のレベルは平成28年版（現行版）と同程度と考えています。USE Speak / Write，Projectなどの言語活動においても，めざす英文のレベルは同様ですが，そこに至るまでのプロセスをスモールステップで提示して，取り組みやすくなっています。

小中連携　───────────────────────────────────────────

**Q. 令和2年度から小学校で英語が教科化されます。中1の教科書はどのように変わりますか？**

　　1年冒頭にHello, Everyone!, Starter 1-3, Lesson 1-3を設け，以下のように小学校の学びをふり返りながら，中学校の学びへとスムーズ接続できるようになっています。

　　Hello, Everyone!, Starter 1-3

　　　・ことばの使用場面と語句･表現

　　　・アルファベットの文字と，文字の読み方

　　　・身近なことについての会話

　　Lesson 1-3

　　　①　聞いたり，話たりした英文を取り出して文字で確認します。

　　　②　取り出した英文の類似点や相違点を考えルールに気づかせます。

　　　③　ルールを意識しながら練習し，知識･技能の定着を図ります。

　　　④　知識･技能を活用し，初見の英文を読む，まとまりのある英文を書きます。

**Q. 中1の教科書で扱う文法事項は？**

　　Lesson 1でbe動詞と一般動詞を学びます。従来この両者を一度に扱うことは，生徒の混乱を招く恐れがあるため，「避けるべきこと」とされてきました。しかし，210時間という小学校の学びで頻繁にこの両事項を使用してきたことを考えれば，従来の中1とは学習経験も身につけた知識･技能も異なります。I am ... / I play ... / I have ... などがチャンクとなって身についていれば，I am play ... というような混乱は生じないかもしれません。むしろ，小学校外国語の利点を活かし，両事項をまとめて扱うことができます。

小学校外国語をふり返りながら，改めて比較したり，明示的に整理したりしていくことで，時間的余裕を確保しつつ，過去→現在→未来の時制を1年で学び，2，3年での学習へと進め，中学で新しく取り扱うことになった文法事項をていねいに指導することができます。

言語活動　───────────────────────────────────────────

**Q. 改訂されたUSE Readの活動は？**

【改訂のポイントと授業イメージ】

GETでは，ターゲットの文法事項を含む40〜50語程度の短い文を読みますが，USE Readでは，

1年100語，2年200語，3年300語のまとまりのある長文を読みます。

　令和3年度版のUSE Readは，新学習指導要領に示された，「目的や場面，状況に応じて読む言語活動を通して，思考力，判断力，表現力を育成する」場であるため，漠然と英文を読むのではなく，「どんな場面や状況で」また「どんな目的で」英文を読むのか，という読みに入る前の設定をきちんとし，SETTINGに示しました。

また，タスク構成も，STAGE１→２→３と進んでいき，１では読みに入る前に，読むテキストに関連して既に持っている知識（内容スキーマ）を活性化し，読みに取り組みやすくなるようにしてあります。次に２では，GuideとGoalと分かれており，Goalが英文の読みの最終到達点になっています。そのため，まずGoalに取り組んでみて，もし少し難しいようであれば，Guideをヒントとして使いながらGoalのタスクを完成させていくという学習の流れを想定しています。最後に３は，読んだ後の活動として，読んだことを元に，自分の考えや意見を表現する活動を置いています。これは，学習指導要領の話すことや書くことの最もレベルの高い目標である，読む→話す［書く］という領域統合的な活動のミニ版で，最終的には，Projectに設定されているような大きな統合的な活動への橋渡しとなっています。

【ジャンルやテキストタイプの違いによるタスクの違い】

　平成28年度版（現行版）と同様に，令和3年度版でも，「物語文」「説明文」「意見文」の３つのテキストタイプのラベルをつけています。物語文であれば，時間の流れや登場人物の動きなどを追いながら，物語全体の概要を捉えるタスクが，説明文であれば，トピックは何か，段落構成はどうなっているかなどを考えながら概要や要点を捉えるタスク，意見文であれば，話者や筆者が言いたいことは何か，その理由は何かなど，要点を捉えるタスクを置いてあります。

【学習の配慮】

　・Words欄の単語に意味を付け，未知語という読みの障害を取り除きました。

　・SETTINGでは，英文を読む目的を理解し，読むことへ動機付けます。

　・STAGE1では，本文の内容に関して事前に知識を持たせることで，読んでみたら理解できたというような感覚をもたせ，読みのハードルを下げます。

　・Readでは，本文を読んでGoalタスクに取り組むことが目的ですが，それが難しい場合はGuideに取り組むことで，Goalの答えに一歩ずつ近づいていけます。

**Q. 改訂されたUSE Writeの活動は？**

　USE Writeの改善は主に次の２点です。

・１つめは，上部の「設定の確認」です。これは，「目的や場面，状況に応じて」，聞いたり，読んだり，話したり，書いたりする言語活動を通して，思考力，判断力，表現力を育成するのという新学習指導要領の文言から来ています。すなわち，覚えるとか繰り返すというような機械的な練習でなく，どんな場面や状況で，何の目的でするのか，考えながら活動に取り組む必要があるということです。

・２つめは，「花のひとりごと」「陸のひとりごと」の設置です。平成28年度版ではあるテーマで書くときの思考の流れを，メモの部分のみで見せていましたが，令和3年度版ではそこをさらに手厚くしました。Step1から2へといくとき，どんなことを考えながら構成を考えればよいか，どういう視点で英文を書けばよいかを，書き手である花さん／陸さんの頭の中を公開して，生徒が書く活動に取り組むときの思考の流れを導いていけるように工夫しました。

**Q. 改訂されたUSE Speakと新設のTake Action! Talkの活動の違いは？**

【改訂されたUSE Speak】

　USE Speakの改善は主に次の２点です。

・１つめは，平成28年度版（現行版）のUSE Speakでは「やり取り」「発表」の両方を扱っていましたが，令和3年度版では，USE Speakではほぼ発表のみ，やり取りはTake Action! Talkで扱うこととしました。

・発表を扱うUSE Speakでは，原稿書きの文はWriteでの経験を活かすことに任せて，発表に特化した活動の流れを提示しました。発表での音声的な留意点や，デリバリーの工夫などについて，考えられるようになっています。また，新学習指導要領にある「即興」の発表にも対応し，「サイコロトーク」「街頭インタビュー」などを扱っています。

【新設のTake Action! Talk】

Take Action! Talkは「やり取り」に特化したパートです。平成28年度版（現行版）のLet's Talkと見ためが似ていますが，内容的には平成28年度版のUSE Speak会話の拡充版です。文法的な観点は一切抜きにして，いろいろな表現やコミュニケーションストラテジー，言語の働きを学びながら，即興でやり取りする力をつけるためのパートです。

即興のやり取りを取り上げ，①身近なトピックについての自由な会話（チャット），②決まった表現を使ったり，形式に則って会話を進める会話，③自分の意見を言ったり，相手の意見に反応したりする会話（ミニディスカッション）の3種類の会話活動を取り上げています。

**Q. Take Action! Listenのリスニングの音声と，巻末のスクリプトの使い方は？**

　学習用に作られた素材は，リスニングの音声であれば日常生活で耳にするものよりゆっくりはっきり読まれていたり，リーディングのテキストであればと簡易な文法や語句を使用して書かれていたりして，自然さを失ってしまいます。Take Action! Listenでは，日常生活の中で実際に目や耳にする素材を使った，より現実の場面に近いオーセテンィックなリスニングを取り入れることで，コミュニケーション能力を育てます。

　巻末スクリプトの使い方は，読んで答えを知ることでも，英文を読みこむことでもありません。英語を見ながら繰り返し音声を聞いて，発音してみて，英語の音変化や抑揚の特徴をとらえることで，リスニングの力をつけることが目標です。

**Q. GET Plusを新設した意図，役割は？**

　新設したGET Plusでは，場面とともに，会話の中で使われる文法のルールや語句のコンビネーションを学びます。ここでは，文法事項としてPOINTで手厚く取り上げるほどでもないものや，POINTで学んだ文法事項の知識を生かして十分に理解できる表現，すなわち，かたまりとして出会い，さっと使えるようになってほしい表現を取り扱っています。また，言語の働き（依頼する，許可を求める）を提示することで，表現の使用目的を理解した上で使えるようになることを目指しました。また，隣り合うページのWord Bankに示されている語句を使いながら練習をくり返し，実際のコミュニケーションで活用する力を養います。

**Q. Projectの目的は？**

　新学習指導要領でも，5領域をバランスよく育成すること（総合）とともに，複数の領域を組み合わせて課題を達成する力も育成することを謳っています。令和3年度版では，5領域の総合的な育成をUSE Read，USE Write，USE Speak，Take Action! Listen，Take Action! Talkで，領域を統合的に活用する力の育成をProjectが担う，という位置づけにしています。

語彙　─────────────────────────────────────────────

**Q. 語彙の選定と，発信語彙と受容語彙の扱いはどのようになっていますか？**

　　令和3年度版では，以下の3つの基準で語彙を選択しています。

　　　①　CEFRJのA1・A2語彙をベースに中学卒業時までの2,200-2,500語を選定

　　　②　発信語彙コーパスを掛け合わせ2,200-2,500語を発信語彙と受容語彙に分類

　　　③　『We Can!』（文部科学省），『CROWN Jr.』（三省堂）などの小学校英語関連の語彙リストをかけ合わせ小学校英語と中学校英語の語彙に分類

　　教科書側注のWords欄には，中学での新出語彙を提示しています。

太字＝発信語彙601語＝すべての中学生に表現の中で使えるようになってほしいもの

細字＝受容語彙＝表現の中で使えるまではいかなくても見たり聞いたりしたときに意味がわかるもの

点線下＝受容語彙のうち話題語＝固有名詞やCEFR-JのC1,2ランクなどの語彙で，提示された意味を見てその場で英文の理解へとつなげられればよいもの

　　小学校で学んだ発信語彙281語については，必ず英文の中で扱った上，脚注に太字で提示しています。

なお，平成28年度版（現行版）と比べると，令和3年度版では，

総語数7,600→9,200，新語数1,200→1,650，最重要語650→発信語彙601＋281　となっています。

ユニバーサルデザイン等　────────────────────────────────────

**Q. ユニバーサルデザインと学習の配慮は？**

・色弱・色盲・色覚異常や発達障害の生徒にも，学習する内容が，どこに，どこまでの範囲で，どんな内容が書かれてあるのかがわかるように，色の選定や区切りを示すケイ線や囲みなどの工夫，見出しや活動内容などがわかるアイコン（記号やマーク），そして活動内容を吟味して作成してあります。

　・1年前半は「読む」文字と「書く」文字のギャップをできるだけ少なくした4線書体とUDフォントを使用しています。

　　※1年Lesson 4以降及び2，3年は，GETはNCゴシックで統一，Readはオーセンティックなテキスト（新聞や雑誌，Web，レポートなど）に合わせた書体，TalkとGET PlusはUDフォントを使用しています。

・2年，3年になってもGETの本文は短いので，読みが苦手な生徒でも取り組めます。

　・読みやすさと目の疲労の負担を軽減するために，ワイド版であっても，左右いっぱいに英文1を提示していません。

・USE WriteやUSE Speakなどの言語活動において，表現にいたるプロセスがスモールステップで示されています。

・USE Writeでは協同学習を取り入れ，助け合いながら表現活動ができるようにしています。

・USE Readにおいては，新出語に訳をつけてあります。